

# 鶴田町農業委員視察研修報告

視察先 十和田市、三戸町  
 期 間 平成20年12月18日（木）～19日（金）

平成20年度鶴田町農業委員視察研修は、冬期間における農業所得の確保を目指した、「冬の農業」に重点を置いた視察研修を実施しました。 当町の農業所得は水稻とリンゴ、ブドウ等果樹栽培で大部分を占めますが、今回先進地の取り組みを研修し、今まで以上に農業所得を高めるためにその概要について報告いたします。

栽培方法について、今後の参考資料としてぜひご活用ください。

## 【十和田市 アスパラガスの伏せ込み促成栽培】

J A十和田おいらせのアスパラガス栽培は、1年株利用の伏せ込み促成栽培であります。これは、ハウスでセルトレイ育苗し、春に露地ほ場へ定植して株を養成後、秋の低温に遭遇させてから、根株を掘り上げ、温床を設置したハウスに伏せ込んで萌芽した若茎を順次収穫する作型です。管内では、露地養成畑298<sup>㌥</sup>（14名）が取り組んでおり、販売量、53,098束（一束当たり100グラム）販売高は、7,762千円（20年実績）程でした。

視察場所と経営概要については、十和田市八斗沢地区を訪ねました。

作 目	項 目	面 積
水 稻	田	2.3 <sup>㌥</sup>
ネ ギ	転作畑	50 <sup>㌥</sup>
長 芋	//	80 <sup>㌥</sup>
アスパラガス（養成畑）	//	40 <sup>㌥</sup>
ハウス	//	300 <sup>㌥</sup>



△収穫前のアスパラガス萌芽床を見学

アスパラガスの栽培概要は、

露地養成畑 40<sup>㌥</sup>（1年株：20<sup>㌥</sup>・一年半株：20<sup>㌥</sup>） 伏せ込み床 30坪 延べハウス2棟（床面積25<sup>㌥</sup>／養成畑10<sup>㌥</sup>）前作にそば、労働力は父、母、本人で、 耕種概要については下記とおりです。

時 期	項 目	内 容
2月中	播 種	品種：ウェルカム
5月下	養成畑定植	茎数3～4本、草丈15～20cmを目安、畦面は黒マルチ被覆140cm×株間40cm(1,800株／10 <sup>㌥</sup> 、25cmの高畦)
11月下	株掘り上げ	5℃以下の積算気温で100時間以上が必要
12月上	伏せ込み	巾1.2m×長さ27m×高さ45cm 面積の目安：床面積32 <sup>㌥</sup> ／養成畑10 <sup>㌥</sup>
12月上	加温開始	ハウス内張カーテン一重、トンネル保温マット被覆、電熱線、フレームはコンパネ使用
12月中	萌芽開始	
12月下～3月	収穫開始	収穫開始は、伏せ込み15日～20日後が目安 収穫期間は、60～70日間、長さは25cmが目安

## 【十和田市 ネギのハウス軟白栽培】

十和田市における露地ねぎの栽培は、旧十和田市が74<sup>㌥</sup>（184名）、旧十和田湖町が15<sup>㌥</sup>（58名）で、「ぼけしらすねぎ」ブランドで販売しており、販売量375,877箱、販売高559,497千円程でした。

このうち、軟白ネギ栽培は、夏穫り（5月～10月）は、3,360坪（111<sup>㌥</sup>）24名、冬穫り（11月～4月）は、4,168坪（137<sup>㌥</sup>）25名で取り組んでおり「十和田娘」（とわだっこ）ブランドで販売しています。

夏どり出荷の販売量は13,659箱、販売高は33,738千円。冬どり出荷は販売量は10,152箱、販売高は22,968千円（19年実績）でした。

軟白部分を遮光する方式は、各地区独自の方式で行われていますが、当地では、コの字型の専用杭「フラット線」で、専用フィルム（高さ50cm）を固定する方式です。



△ハウス内で収穫された軟白ネギ

農業委員視察研修報告

視察場所と経営概要は、十和田市藤島字和島地区を訪ねました。

作 目	項 目	面 積
水 稻	田	6 <sup>㌥</sup>
大 豆	転作田	1.1 <sup>㌥</sup>
施設野菜	//	0.9 <sup>㌥</sup>
ネ ギ	畑 (露地)	120 <sup>㌥</sup>
長 芋	//	60 <sup>㌥</sup>
ゴボウ	//	60 <sup>㌥</sup>

軟白ネギの栽培概要は、

軟白ネギ栽培作付面積：940㎡(ハウス五棟：45坪×1.60坪×4棟)で、耕種概要は、育苗方式…みのる式セルポット育苗一穴二粒播種(400粒1箱)品種冬扇3号で、労働力は 本人、妻、臨時雇用2人でした。耕種概要については下記とおりです。

<冬穫り>

項 目	時 期	内 容
播種時期	5月10日	
定植時期	6月25日	
保温方法		屋根ビニール 内張一重カーテン 白黒マルチ
収穫期間	12月上~中	
植栽様式		条間30cm、2条植、通路50cm、株間3.5cm

<夏穫り>

項 目	時 期	内 容
播種時期	11月上	
定植時期	3月上	
保温方法		屋根ビニール 内張一重カーテン 白黒マルチ
収穫期間	7月上~下	
植栽様式		条間30cm、2条植、通路50cm、株間3.5cm

【三戸町 新品種を導入した「タラの芽」栽培】

三戸町の貝守林業研究会では会員20人のうち13人が「タラの芽」栽培に取り組み、共同で促成技術等を研究し、冬の農業の所得向上をめざしています。

取り組んだ契機は、地域の主な農業経営形態が、「葉たばこ+水稻+林業」の複合経営ですが近年、水稻及び葉たばこの生産調整の増加や林業の停滞など農業所得が減少していました。

このため、研究会では農閑期である冬期間に自分たちでも生産できると協議し、「タラの芽」栽培に取り組みました。

栽培方法：「タラの芽」は露地で穂木を育て、翌年その穂木を切り倒し「ふかし作業」を行い頂芽と側芽を収穫します。自生の「タラの芽」は頂芽の収穫だけなので、栽培には向きません。研究会では、「タラの芽」穂木を山形県より約900本購入しました。品種は「あすは」で育成者からの購入です。



△育苗箱に並べられた駒木 (切られた穂木)

伏せ込みは穂木を一芽ずつ約15cmの長さの駒木に切り揃え、育苗箱に駒木を並べます。

伏せ込み床用の木枠を作成しポリを敷き水を貯めます。温度は18度にサーモ設定し管理します。切り口から樹液がしみ出しカビが発生しますので、伏せ込み後、一週間間隔で動噴による洗い流しを行います。伏せ込み後、7~10日位で芽が色づきふくらんできます。このとき天芽の伸びが一番早く出ます。遮光資材で生長を調整し収穫期に達したものを順次収穫していきます。

収穫はハサミを使い根本から切り離します。1パック50g毎に計量し、1パック毎にラッピングします。1箱20パック、1kgで出荷しています。

穂木の養成は、根から行き根を7cm程度に切り揃え種根としポットに植え育苗します。

出荷形態、ネーミング等協議しながら地元農協から出荷する事とし、新たな産地化をめざし冬期間の所得向上に取り組みました。

今回、十和田管内のハウス野菜栽培農家と三戸町の「タラの芽」栽培を視察し、鶴田町における冬期間の野菜作りについて、課題を検討してみました。

はじめに冬期間の積雪量の違いによる維持管理費、日照時間の多少による栽培温度の違い等が考えられそれにとまなう支出経費を低減する技術を確保する必要があると考えられます。

アスパラ栽培は、12月下旬~3月上旬、ねぎ栽培は12月中旬で収穫期を終えます。

アスパラにおいては、種株のほ場が必要で平均耕作面積の少ない地域では、ほ場を確保する必要がありますがネギ栽培については、土寄せに係る労力の必要もなく、水稻育苗ハウスも利用できます。「タラの芽」については、気象条件が鶴田町とあまり差が無く取り組みやすい反面、穂木の確保や、販売流通先の開拓などが考えられます。

これらの課題を踏まえ、品目や栽培方法に工夫をこらした「冬の農業」への取り組みが必要だと感じてきました。今回の視察を終え我々農業委員も、栽培技術の確立と普及に努め、生産組織化による産地ブランド化をめざした農業振興・農村活性化に向けた取り組みや、5年後、10年後の農家状況にも視点を広げた活動が必要と感じてきました。